



本専攻では学部で培った知識を基とし、語学または文学・文化の側面から研究を行います。語学研究では、いわゆる古典以外のものを研究対象とするよう指導しており、具体的には、唐宋代以後の白話及び現代漢語（方言を含む）を対象としています。文学・語学のいずれを専攻するにしても、自分の専門以外の知識も幅広く身につけ、将来いわゆるSinologistに一步でも近づくことを目指して勉強しています。

Based on the knowledge acquired in the undergraduate course, students conduct research from linguistic or literary-cultural aspects. In their language studies, students are expected to focus on written language after the Tang-Song era in addition to modern Chinese, including dialects as their research subjects rather than the classics. Whichever course is chosen, students are expected to take step toward becoming professional Sinologists.

授業担当専任 スタッフ Academic Staff Profiles

任 鷹 (にん しょう) Ying REN
●教授/Professor

現代中国語文法を研究している。とりわけシンタックス及び意味論の研究が中心である。

Research interest includes syntax, semantics, and the studies of writing

下地 早智子 (しもじ さちこ) Sachiko SHIMOJI
●教授/Professor

印欧語がセンテンス指向型の言語であるのに対して、日本語や中国語は談話指向型、語用論指向型の言語であるといわれることがあります。ともに談話指向型であり、漢字を有することなどから、日本人にとって中国語は極めて親しみやすい言語であると言えます。しかし、そんな中国語にも日本語からは考えられないような文法現象が多く存在するようです。何が異なるのか、なぜ異なるのかを考えることが私の課題です。

Chinese Linguistics. Contrastive analysis of contemporary Mandarin Chinese and Japanese with emphasis on grammar and semantics.

竹越 孝 (たけこし たかし) Takashi TAKEKOSHI
●教授/Professor

中国語歴史文法を研究している。特に元・明・清代における中国語北方方言の変遷過程をアルタイ諸語との接触という観点から分析し直すことを主眼として、中国語とモンゴル語、満州語、朝鮮語などの対音・対訳資料を用いた研究を行っている。

Chinese historical grammar, specially based on materials outside of China in Yuan, Ming and Qing dynasty.

秦 兆雄 (しん ちょうゆう) Zhaoxiong QIN
●教授/Professor

中国社会・文化の理解にとって極めて重要な柱である家族・親族・婚姻・死生観について、その実態と理念及び現代的な諸変化を、実地調査に基づいて実証的に解明しようとしている。また、日本との比較の視点から、今後の中国社会秩序の変動や再構築などを考える上で、宗教や民族などの諸問題がいかに重要な要素になるのかに注目しつつ、都市化やグローバル化などの変動過程において、家族・親族関係がどのように社会保障制度として機能し、文化資源として活用されるのか、都市と農村の格差とそれに関与する人口移動や計画出産問題と関連する少子高齢化問題がいかに重要な要素になるのか、などについても論じている。

My main research, which is based upon fieldwork, compares the Chinese and Japanese systems and cultures of marriage, family, and religion.



櫻井 次郎 (さくらい じろう) Jiro SAKURAI
●教授/Professor

中国の環境問題および持続可能な発展について法的・政治的視点から考察している。現在の中国では、経済成長と社会的安定を最優先する国家運営の在り方が環境政策に限界を与え、環境公害を深刻化させている。この環境問題の解決の道筋・方策を、中国の研究者や実務家らとともに探っていきたいと考えている。

Chinese Environmental Law, Environmental Policy, Sustainable Development.



紺野 達也 (こんの たつや) Tatsuya KONNO
●准教授/Associate Professor

唐宋期の詩文、特に盛唐期の王維の詩歌とその受容を研究することによる、「園林」(荘園・庭園)を中心に地域・風土・風景と文学との関係を考えています。また、広く東アジアにおける漢文学、漢文資料の流通といった問題にも関心を持っています。

Chinese Classical Literature, especially poetry and prose in Tang and Song dynasty

津守 陽 (つもり あき) Aki TSUMORI
●准教授/Associate Professor

中国近現代文学、特に沈從文を中心に、〈郷土〉概念の形成と、それをめぐる文学表象について研究している。一種の共同幻想としての「ふるさと」「いなな」イメージは、近代中国だけではなく、日本を含む世界各国で様々に変異しながら盛んに生み出され、今も我々の世界観に影響を与えている。その〈郷土〉をつづることばのあり方について、関連する近現代の思想潮流と絡めながら研究している。

Modern Chinese Literature, Literary Representations of the Native Place, Shen Congwen

最近の修士論文等のテーマ Recent Master's Thesis Subjects

- ・近代中国におけるピジンの比較研究 一人称代名詞を中心に
- ・現代中国語の因果を表す接続詞“因为(～の原因で)”と“由于(～の由に)”に関する一考察
- 「発話領域」(Sweetser, E. 1990)の観点から
- ・中国語諸方言における入声韻尾消失現象に関する考察
- ・現代中国語における述詞性の目的語をとる動詞類に関する研究
- ・日中両言語における受身表現の形式と機能について
- ・『新集藏経音義随函録』における重紐の対立について
- ・日本語と中国語における二重否定表現に関する対照研究

-どのような学生生活を送っていますか?

1年目には週7コマの授業を受けました。授業以外の時は研究室で論文や本を読むことに時間をかけました。また、学内にあるチャットルームで、週1時間の「外大チャット」をしています。ここでは、中国に興味を持つ日本人の学生と一緒に日中両国の文化を交流し、お互いに語学力を磨いています。

-神戸市外国語大学の修士課程を選んだ理由を教えてください。

私は言語そのものに対して興味を持つようになり、修士課程に進学しようと決意しました。現在の指導教員の先生の研究内容を拝見して、専門性が高く、細かい所までしっかりと記述があり、すごく感銘を受けました。また、先生の研究は自分が研究

したい方向と深い関係があったため、本学を志望しました。受験にあたり、専門知識が不足していたため、まず研究生として1年間、先生の下で勉強しました。先生方が学術に対して非常に真面目で、学生に教える時にも漏れなく親切に教えてくださいましたので、私にとってこれ以上ない環境です。

-入学する前と後で大学院に対するイメージはどのように変わりましたか?

入学前は、修士課程はとて難しく無味乾燥だと思っていました。しかし、入学後、先生方と先輩たちが優しく熱心に教えて下さり、研究の面白さを日々楽しんでいます。また、入学前、専門知識が不足していたためとても不安でしたが、内容が充実した本学の授業を履修することで、色々な知識を習得することができました。

院生紹介 Message from a Student



張 玲 (2年)
ZHANG Ling